

MOVIN'

高岡デザイン情報誌「ムーヴィン」

特集
高岡山町筋
未来へ残す町のデザイン
「町並みの保存と再生」
高岡発ユニバーサルデザイン

2002 vol. 11



ISSN 0918-7111

MOVIN'
バックナンバー一冊プレゼント

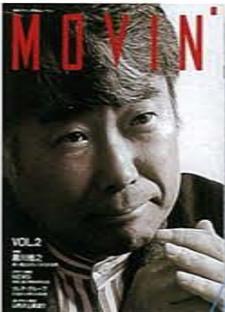
ご希望のナンバーがございましたら下記までお申し込みください。各号、先着100名様に無料で差しあげます。なお、送料はご負担いただきます。

■官製ハガキにてお申し込みください
裏面に、ご住所・氏名・職業・勤務先名を明記のうえ①希望のナンバー(複数号可能)②興味のあった記事③本誌に対するご意見をお書きください。先着100名様に無料送呈いたします。なお、送料は本人負担(宅配便にて着払い)となります。また、各号お一人一冊とさせていただきます。(1号・2号は在庫がありませんのでご了承ください)。
※締切／平成14年8月31日消印有効



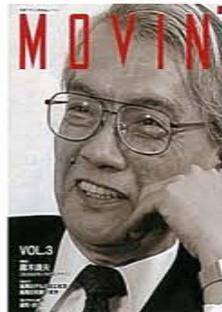
vol.1

特集：松永 真「高岡イメージポスター」を制作して
デザイン戦略／伝統工芸とコンピュータ
街・デザイン探訪／金屋町



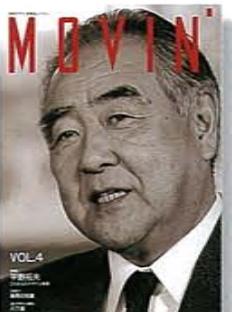
vol.2

特集：黒川雅之「モノづくりの世界」
デザイン戦略／NEWS・クレアグループ
街・デザイン探訪／山町の土蔵造り



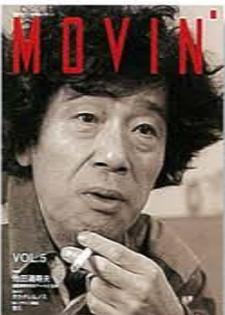
vol.3

特集：里木清夫「これからのモノづくりとデザイン」
WAY／アルミ加工産業・和菓子業界
街・デザイン探訪／八丁道



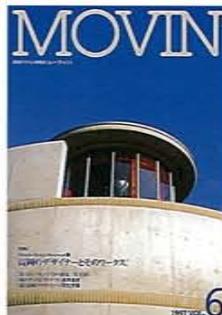
vol.4

特集：平野拓夫「これからのデザイン環境」
WAY／高岡の梵鐘
街・デザイン探訪／伏木



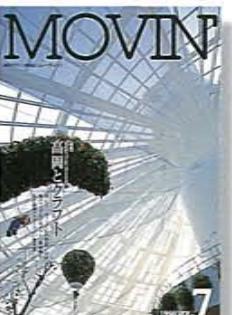
vol.5

特集：池田満寿夫「アートと日本」
WAY／タカラレムノス
街・デザイン探訪／吉久



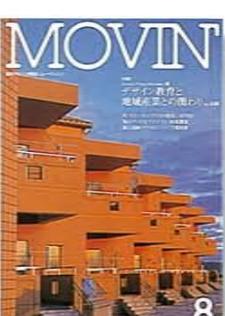
vol.6

特集：高岡のデザイナーとそのワークス
モノづくりの情景／彫金師
私のグッドなプロダクト／荻野克彦
私と高岡クラフトコンペ／羽生野重



vol.7

特集：高岡クラフト
モノづくりの情景／後藤
私のグッドなプロダクト／森山明子
私と高岡クラフトコンペ／金子透



vol.8

特集：デザイン教育と地域産業
モノづくりの情景／原型師
私のグッドなプロダクト／杉本貴志
私と高岡クラフトコンペ／下尾和彦



vol.9

特集：高岡市デザイン・工芸センター
オープン／モノづくりの情景／詩金家
私のグッドなプロダクト／川上元美
私と高岡クラフトコンペ／町田一



vol.10

特集：北陸4県の「素材と技術展」
モノづくりの情景／指物木地師
私のグッドなプロダクト／松永 真
私と高岡クラフトコンペ／太田真人

高岡デザイン情報誌「ムーヴィン」

VOL.11 2002年3月31日発行

Published by

高岡市デザイン・工芸センター
〒939-1119 高岡市オフィスパーク5番地
TEL0766-62-0520
<http://www.suncenter.co.jp/takaoka/>

1200 本誌は古紙100%の再生紙を
使用しています。

ユニバーサルデザイン(以下UD)とは、90年代のアメリカで工業デザイナーの故ロン・メイス氏が提唱した概念だ。それによると、障害の有無に関わらず、誰もが利用しやすい製品や生活環境の設計を理想としている。ただ、UD提唱の以前からも、高齢者や身障者にとってバリア(障壁)になる建築要素を取り除くという、いわゆるバリアフリーが進められてきた。従来あつた歩道や玄関の段差を解消したり、開口部の幅を広げるなど、既に多くの製品や生活環境に適用・展開されている。

しかしUDは、あらゆる人を対象にしたことと、最初から意図してバリアのない製品や生活環境のデザインを目指したことが、考え方の異なる点だ。いわばバリアフリーを発展させた概念として、今後の世界的な主流になっていくといわれている。日本でもその取り組みが急がれていることを背景に、今回のユニバーサルデザインフェスタが開催された。

富山県産業高度化センター展示室では、同フェスタの会期を通じて「生活者のためのデザイン展」が催された。集まつた展示品は、UD先進国といわれるスウェーデンのグッドデザイン商品をはじめ、国内外の企業によるUD商品や、著名人が愛用する逸品(8頁参照)など222種類・378点である。会場の一角には、実際に使用して感触や機能を確認できる商品体験コーナーも設置された。

UDの周知と理解を促すという意図で企画された同フェスタだが、来場者を対象として実施したアンケート調査によると、6割以上が今回機会を通じてUDという言葉や意味を初めて知ったと回答している(Q1参照)。また、UD商品について「もっと普及してほしい」「これからの時代に欠かせない」などの意見が寄せられた(Q2参照)。

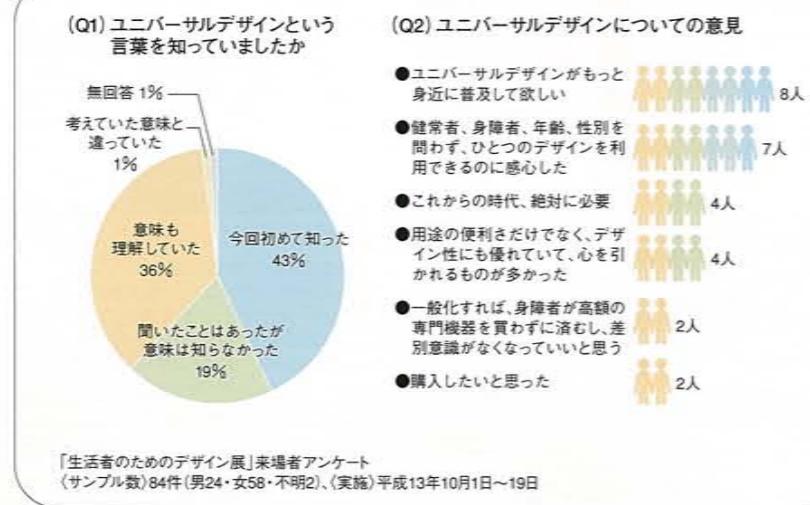
あらゆる人に配慮したデザイナー。UDの概念をひとことで表現すると簡単だが、製品開発の現場では様々な試行錯誤を繰り返しているというのが現状である。あらゆる人とい

う限りなく広いユーザーに対して、作り手はどのような考え方でアプローチすればいいのか。97年にメイス氏を中心とするグループが提示した「UD7原則」(下記参照)は、実際の製品開発においてUDの基準を判断する基本的な物差しになるとされている。しかし、製品や生活環境の特性によっても、その基準が違ってくるはずだ。そもそも、UDはどのような経緯で提唱され、これから社会とどのように関わっていくのだろうか。二部構成で実施されたフォーラム(10月6日)では、その辺りについて考察されたので振り返ってみる。

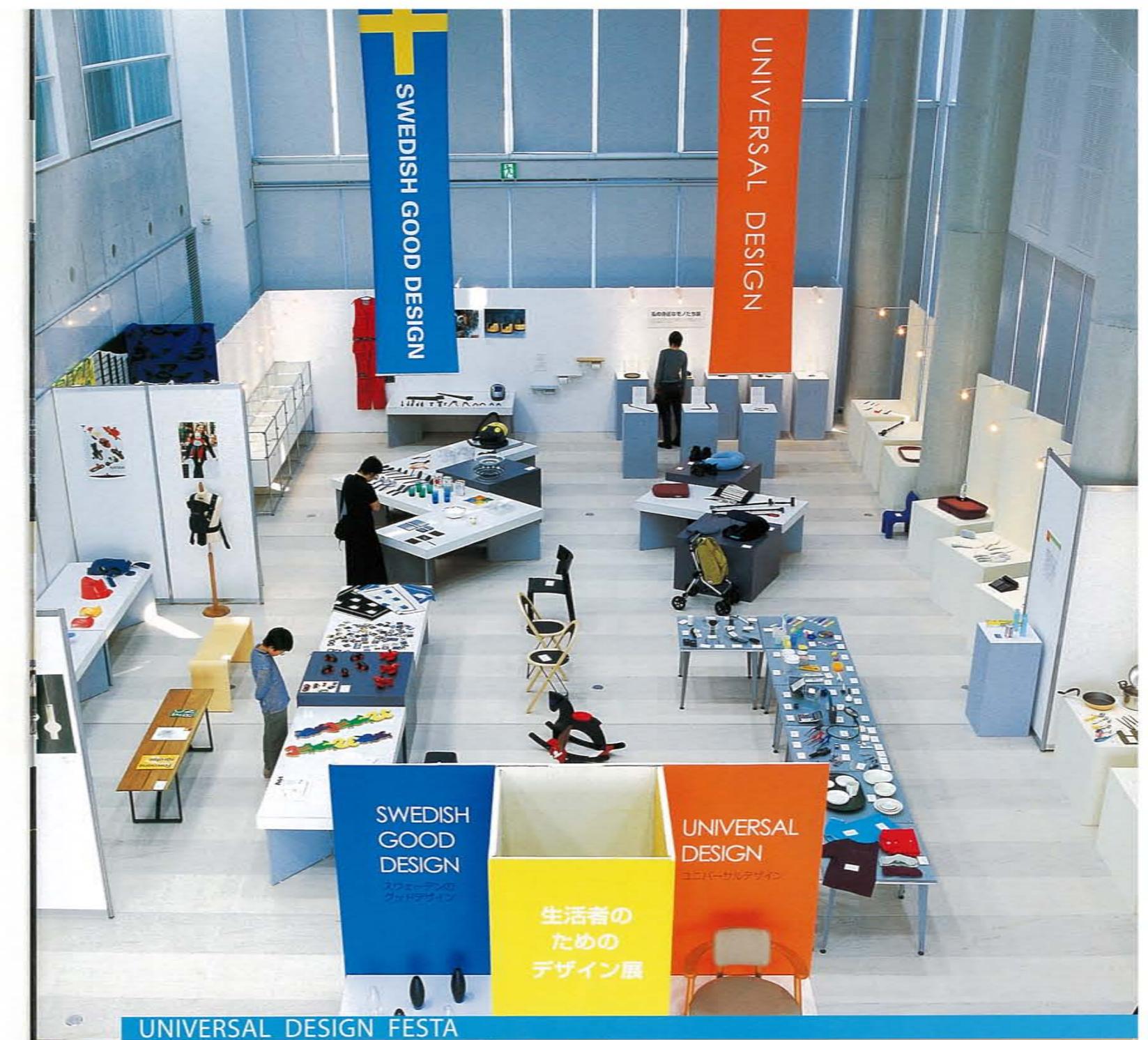
時代の必然性から生まれた、UDという新しい産業の目標

Part 1では、工業デザイナーの渡辺英夫

さんとUDが提唱されるまでの歴史的な経緯やデザイナーが考慮すべき点について講演していただいた。要約すると、手仕事の時代から18世紀末にイギリスを中心として始まった産業革命を経て、工業製品を大量に生産する時代に突入する。つまり、より多くのユーザーが共用できる製品づくりの始まりだ。その後、工業製品の規格化や合理主義的なヨーロッパ近代デザインの体系化が進む中で、なぜUDが具体的な思想として提起されたのかという点に触れる「当時、好景気を迎えていたアメリカの産業界では、行きすぎた大量消費社会に限界を感じていました。人々は環境破壊などの弊害に目を向け始め、企業は社会貢献に取り組まなければ存続できなくなってきたことに気付いたのです。そこで、製品の直接的な購買層だけではなく、あらゆる人々が共感できる目標が必要になっていました。産業界の思考転換が迫られる中で、エコロジー・リサイクルなどとともに、UDが新しい目標として掲げられたのは時代の必然性といえるでしょう」と説明した。



- ①誰にでも公平に利用できること
- ②使う上で自由度が高いこと
- ③使い方が簡単ですぐわかること
- ④必要な情報がすぐに理解できること
- ⑤うっかりミスや危険につながらないデザインであること
- ⑥無理な姿勢をとることなく、少ない力でも楽に使用できること
- ⑦アクセスしやすいスペースと大きさを確保すること



高岡発ユニバーサルデザイン

バリアフリーからユニバーサルデザインへ
キーワードは「生活者の視点」。

近年、企業やデザイナーの重要な取り組みのひとつになっているのが、高齢者や身障者に配慮した製品づくりだ。そのテーマは、世界規模でバリアフリーからユニバーサルデザインに移行している。高岡市デザイン・工芸センターは、こうした時代の流れに対応すべく「ユニバーサルデザインフェスタ」(平成13年10月1日~19日)を開催。国内外の商品などを集めた「生活者のためのデザイン展」、ユニバーサルデザインの概念や商品に詳しい方々を招いた「フォーラム」、一般参加者が生活用品の製作を体験した「ワークショップ」で構成するプログラムを通じて、ユニバーサルデザインの啓蒙と普及が図られた。

標準化を広げすぎても、便利になりすぎてもいけない

産業革命以前は、一人ひとりのニーズに合わせた手仕事の受注生産が当たり前のように行われていた。経済的には非効率だが、使う人にとってはもっとも理想的な仕様にてUDは、様々な差異を持つユーザーを念頭に置きながらも、ある標準を決めてより多くの人々に対応しなければならない。平均的ユーザー像を想定した大量生産の発想に通じるこの考え方は、一方で対象から外れる人々が出てしまうという矛盾を生じる。こうしたユーザーの多様性に対して、どこまでをカバーしていくべきか。渡辺さんは次のように説明する。

「ものの用途によってUDの基準が違つてきます。たとえば、プロが仕事に使う道具は、UDを意識していない場合が多い。業務用ビデオカメラは、基本的に右目でファインダーを覗くように設計されています。対象物を見失わないように、左目で全景を捉えるというカメラマンの経験から生まれた仕様なのでしょう。ただ、右目に障害を持つ人には、非常に使いにくい。すべてのものを標準化させることではなく、特定の人が専用に使うものは区別して考える必要があるでしょう。UDとは、誰もが日常的に使う生活機器や公共空間の場合に、なるべく多くの人が利用できるように配慮することだと思います」

さらに、ものを人に合わせてデザインするというUDの理念とは別のアプローチから「使いこなす能力を身に付けることも大切だと思います。たとえば、日本人が日常的に使っている箸は、慣れない西洋人からすると使いにくいのかも知れません。だからといって、不便な道具ということにはならない。箸を使いこなす能力が、西洋人に養われていないということ。あまりにも便利になりすぎてしまうと、ある部分でいう売場を目指しています」と語った。

実生活での必要性からUD商品の開発に取り組む

青柳芳郎さんは、スプーンやフォークなど金属洋食器の主産地である新潟県燕市で、食器を中心とした福祉用品の開発に取り組んでいる。当初は、輸出中心の洋食器メーカーとしてスタートしたが、円高による輸出減少を機に、付加価値の高い商品を国内向けに開発する方針に転換した。現在では、若い女性向けの生活雑貨などビジネスフィールドも多岐にわたっている。青柳さんが福祉用品の開発に取り組むきっかけになったのは、家族の一人が手足に障害を持つことだ。以来「食事は毎日欠かせない人間の本能であり楽しみでもある。何とか自分で食べられる道具



UDは単に頭だけで考えても解決しない

山田 W.I.L.L.シリーズは、今までスプーンを持てなかつた人も、手を上下に動かしたり、自分の口に運ぶ力が残っていないれば使えるようになります。食べさせてもらうのではなく、自ら食事をすることによってリハビリ運動にもなるでしょう。青柳さんは、「自分の生活の中から発想しているので、使い手に対する配慮の行き届いた道具になったのだと思います。私の場合、介護の専門家ではありませんが、売場のお客様に生活の中で困っていることをお聞きして、それを商品に反映させていくというスタンスが、いい発想を生みやすくしています。UDというのは、単に頭で考えるだけでは解決しない



山田 節子

株TWIN(トゥイン)代表
株東京生活研究所ディレクター
地場産業や固有性のあるライフスタイルをテーマに様々な企画催事・ものづくりに取り組む一方、百貨店「松屋」のシンクタンクとして、生活フロア、食品フロアのディレクションを通して、長年提案を続けている。



松屋銀座「ユニバーサルスクエア」



「ピタットレー」ウレタン樹脂加工を施した表面は、トレーを傾けても食器が滑りにくい。子供や高齢者の食事や、病床への配膳にも安心である。

「かに座」

「Stool「BIMBO」シンプルで積み重ねが可能なフォルム。コンパクトで邪魔にならず、玄関で靴を履く際の腰がけにも適している。



渡辺 英夫

渡辺デザイン研究所代表
1958年、日本コロビア株入社。'72年、ソニー㈱に入社し計画室長として国内外工場の設立企画を手掛ける。PPセントーを創り、ウォームマン、フラットテレビなどを商品化。'90年マーチャンダイジング戦略本部長として商品企画、デザイン、宣伝などを統括。'94年渡辺デザイン研究所設立。

人の能力が失われていく気がします。だから、共用化を考えるなら、ものを人に近づけるだけでなく、人の自助努力を同時に考えていくべきでしょう」と、UDの解釈についての持論を披露していただいた。

特別な売場ではなく、普通の売場が理想



フォーラムPart2

続くPart2では、シンクタンクでディレクターを務める山田節子さんと、新潟県燕市で洋食器メーカーを営む青柳芳郎さんが加わり、自らが携わった売場や商品を紹介していただいた。まずは、百貨店「松屋銀座」で「ユニバーサルスクエア」というUD商品の売場をディレクションしている山田さんが、その経緯や商品について説明。それによると、同店では、平成11年に創業130周年を迎えるにあたり記念イベントの企画を社内公募したところ、高齢者を対象にしたプランが採用されることとなつた。提案した女性6名によるグループが企画内容をさらに検討するうちに、時代の流れに合わせてUDを最終的なテーマに選んだ。同年11月に開催されたこの記念イベントが好評だったことから、翌年3月に常設コーナーとしてオープンしたという。

山田さんは「売場をコーディネートするにあたり、まず大切にしたのがデザインへのこだわりです。いいデザインというのは、時代が抱える課題を解決し、理想的な答えを提示してくれるのではないか、という考えが出発点になりました。また、介護用品は、使う人に必要な機能を与えるべきでいいという無機質なデザインが多い。そうではなく、自分がその立場になったとき、生活がもっと楽しくなると予感させてくれる商品の開拓を目指しました」と、売場づくりの基本的な考え方を説明された。

ユニバーサルスクエアは、同店7階に約150点のアイテムを陳列している。食器や文具、衣類や家具など種類も豊富で、売上も好調のことだ。商品の中には、家具コーナーか

商品企画だつたり発想のような気がします。

渡辺 発想することも大切ですが、さらにそれを市場に展開していかなければならない。これが難しいわけですが、ひとつの成功例として青柳さんのケースを教えていただきたい。

青柳 以前は、製造だけに力を入れて、販売に関しては任せでした。円高によつて輸出が落ち込んだことで国内に目を向けたときに、従来の商品では中国製品などに価格面で勝てない。そこで、消費者のニーズや自社商品の問題点をお客さんとの情報交換によって探りながら、競争力のある商品を目指すことから始めた。当初は、どこに行つても相手にされなかつたが、見本市や専門誌で露出させるうちに反響が少しずつ広がりはじめ、販路の拡大に結び付きました。

山田 視点を変えることで、市場が拓けることがありますよね。UDは、そのきっかけになるかも知れません。漆器産地の方に求めたいのは、生活スタイルが変わつてきている中で使っていく漆器。それは、堅牢で安心感があつて、それでいて漆が持つ本来の美しさを表現してくれるものだと思います。以前、よく重い陶器の大皿を提案したり、自分の生活の中で使つたりしていましたが、年齢を重ねることに運んだり洗つたりする体力がなくなつてきます。だから、今では大きな漆盆を使うようになりました。生活スタイルに合わせた新しい使い方を提案していくには、伝統産業も十分に生きていけると思います。

渡辺 伝統工芸をもつとも受け入れやすいのは、高齢者の方でしょ。そういう方々に何か新しい作法を提案できないでしょ。伝統工芸は、古来から作法というものを生み出してきたが、現代の生活スタイルに合わなくなつてしまつてはなりません。知識がなければ、新しい発想が生まれてこないからです。でも、その分野が専門的になりすぎると、研究するだけで一生を過ごすことになつてしまふ。発想のための勉強なのに、発想しないまま終わるのです。これ

に保存できるように改良するとか。従来からの問題点を解決することで新しい価値が生まれるはずです。それは簡単なことではないが、解決の糸口を探し続ければ何かの機会に見つかることもある。

青柳 身近に障害を持つ者がいたことから、手の不自由な人のための食器にチャレンジしました。それ以来「食器メーカー」として培つてきた技術や経験を活かして、高齢者や身障者の自立に役立ちたい」という信念を持つていつなつたら、形状記憶ポリマーに出会つても商品化に結び付かなかつたかも知れません。

山田 ものとは、実感の中から生まれてこないと難しいでしょ。漆器が売れないということでお話しされる機会があつたのですが、職人であるご主人がつくった器を奥さんが使つていない。作り手自身も使つていないというのが現実で、やはり生活の中で使うものをつくるないと、これからは絶対に需要がないだろうと思います。



立場の違う3名だったが、「UDは実生活の中から生まれる」という見解が一致したところで討論に幕が下ろされた。

実行しながら解決していく思考を身に付けていただきたい

3時間に及ぶフォーラムの最後に、渡辺さんがまとめて語った次のコメントを紹介する。

「UDの理念は、単に製品や生活環境だけでなく、社会の見えないバリアにも及びます。UDを導入するための社会制度の整備や、人々のUDに対する意識の向上など、解決すべき課題も多い。また、デザインを進める過程にも、ある意味でのパリアがたくさん存在しているのではないか。たとえば、デザイナーが理想的な発想をしたにも関わらず、自社の資本力や技術力に限界を感じて、実行する前に諦めてしまふことが広がっているはずだ。

私の身近なモノたち展

「生活者のためのデザイン展」の会場には、デザイナーや建築家など13名の愛用品を展示了。



フォーラムの翌日(10月7日)に実施されたワークショップでは、14名の参加者が鍛造による銀製スプーンの製作を体験した。作品のテーマは、「自分にどう使いやすいスプーン」。参加者たちは、自らが捉えたユニークなデザインの形をスプーンに反映させながら、糸ノコや金槌などで仕上げていった。完成した作品は、翌日から19日まで「生活者のためのデザイン展」の会場の一角落に展示された。

「銀のスプーンをつくる」

● 高岡市「デザイン・工芸センター」階
(造形・体験工房)
○ 講師 / 今淵純子
(国立高岡短期大学産業造形学科金属工芸コース助手)



形状記憶食器具「WILLシリーズ」
「樂々お箸」「ほのぼの湯のみ」力のかからないソフタ握りの補助クリップ付きの箸。湯飲みは、内部が空洞になっていて軽量で中身の温度が直接手に伝わらない。



青柳 芳郎
株青芳製作所代表取締役
1955年、あおよし製作所を創業。71年、株青芳製作所に組織変更、代表取締役就任。90年、手の不自由な人のための洋食器「WILL」シリーズを開発。その後、「WILL-1」がフィラデルフィア美術館主催「日本のデザイン—1950年以来展」選定作品となり、「WILL-3」が通産大臣賞・グッドデザイン賞を受賞。

大学から企業へ デザインからはじめよう。

①KEY PERSONS

2000年、新カリキュラムの編成により、一新した国立高岡短期大学産業デザイン学科。その翌年、実在する地元企業をクライアントに迎え、よりリアルなデザインワークを体験する「C-I計画」の授業がスタートした。企業と学生の連携による、この初めての試みは、地元産業の活性化を目標に入れ、今ゆっくりと動き出している。

Design&Text by 鯉野貴成・富永華織（高岡短期大学産業デザイン学科）



漆器問屋とバラエティーに富んだ業種で構成されている。応募動機はさまざま。「自社の古いロゴマークが気になる」「会社を良くしたいが方法が分からない」「など疑問や不安の気持ちが大半を占めた。しかし、学生の真剣な眼差しや想像以上にしっかりと仕事内容にその考えは次第に意欲的なものへと変化していく。中には「私の会社はもっと勉強しなければならない」という考え方を持つようになつたクライアントもいたほどだ。C-Iは企業の外側だけではなく、内側をも変える力を持っている。このデザインに本気で取り組む学生の情熱的な探求や新しい視点に触れる。それは企業にとって、次第に良ききっかけとなるのではないか。」

「ながる高岡の未来

市川浩一朗（クライアント・株市川昭太郎商店専務）

これから企業は社会情勢や環境の変化に合わせ、より良い方向へと変化していくに求められる質の高いデザイナーにならなければならぬ。その変えたい、変わらないという両者の思いは今回このようない形で実現することができた。その背景には、地域の発展に役立つデザイナーの育成に努める高岡短大、そして優れた技術を有する特色ある地元企業がある。両者は高岡という土地で高岡をより良い方へ変えて行きたいという同じ目的意識を持って存在しているのだ。このように高岡特有の地域特性、両者の前向きな姿勢があつたからこそこの試みは実現したと言えるのではないだろうか。「今後もこの授業を継続し、その都度、問題点や課題を解決していきたい」と武山助教授は語る。それはおのずと現在だけではなく、これから高岡の産業界をさらに発展させていくに違いない。今後ますますこの授業に更なる期待がかかる。



右：作成したマークやロゴを展開した名刺、封筒、レターヘッド。
今回、参加した企業の一つ銅鉄器卸売業、市川昭太郎商店の採用デザイン。コンセプトは、「伝統美の再認識」。クライアントとの話し合いで「新しいものや輸入商品が増えるなか、日本人だけに合ったものは、日本人だからこそつくることができると思う。高岡銅器の良さを知ってほしい」という市川さんのセリフからヒントを得た。



左：2001年7月に開催された作品展の会場風景。

企業七十七

今回のクライアントは高岡商工会議所での呼びかけで集まつた地元企業4社。銅鉄器卸売、建設・土木、印刷・加工、

「リアルなデザイン」「仕事をしての授業を」これは今回の授業を企画、指導する武山良三助教授の考である。机の上では得られないものを実際に現場に出で学ぶことが目的だ。企業で使用することを前提に授業では、クライアントを交えたオリエンテーションでの意見交換、会社訪問でのお客様との対話やショールームの見学、そして市場調査やアンケートを通してデザインを提案する。「自分がいいと思うデザイン案と、クライアントの要望すべてを追求し情報を整理し、的確に把握する。その上で有機的なデザインワークや質の高いデザインが必要されるわけである。この授業を通して、学生はデザイナーの仕事の本質に少し触れることができたのではないだろうか。2年間で社会へと出て行く学生にとっては難しくも必要な通過点と言えるだろう。

学生は、デザイナー



鯉野貴成（高岡短期大学産業デザイン学科）

次代のクラフトマンが多数参加

(問) 高岡商工会議所内クラフトコンペ事務局 tel 0766・23・5000

「工芸都市高岡2001クラフト展」が平成13年10月25日から6日間にわたって開催された。会場となった大和高岡店では、入選作品1,168点が展示された。

今回の出品は前回より多い2,138点。参加者380人のうち47%が初出品者で、年齢・経験とともに若さが際立つコンペとなった。グランプリに選ばれた「MODERN」の下尾和彦さん(八尾町)も20代の家具作家。和・洋の様式に捉われないモダンなフォルムで、'98年に続き2度目のグランプリ受賞という偉業を成し遂げた。「生活空間の中で機能させながら、品格や新しさを表現した秀作」と審査員らの評価も多い。銀賞の「フリーカップ」もまた、20代の若者たち(岩手県)による作品だ。

会場では学校を卒業したばかりのような若者も多数、初出展(初入選)を果たし、年々活況を呈しているのがうかがえる。同展を通して数多くのクラフトマンが飛躍的に成長を遂げていることからも、今後の開催がますます期待されるところだ。



くらしに生きる伝統のかほり展

新生活スタイルの提案で、伝統産業に新境地を拓く

(問) 高岡伝統産業青年会 tel 0766・23・5000

高岡伝統産業青年会の「くらしに生きる伝統のかほり展」が平成14年1月24日~27日、高岡市中央町のクラフトショッピングB'comeで開催。高岡の伝統産業の銅器、漆器の新作143点が展示され、多数の来場者を魅了した。

同展は新商品開発の発表を目的に平成7年度から毎年開催。今年のテーマは「新生活スタイル」で、生活に密着した市場性の高い作品を募集した。審査員もインテリアショップの店長や商品開発担当者、クラフトコーディネーターなど、流通に精通した顔ぶれがずらり。審査後は出品者も加わって、作品の評価や助言など審査員の声を直接収集できる交流会も設けられた。

大賞に選ばれた上田由紀さん(入善町)の「水鏡の皿」は、暮らしに溶け込むシンプルな漆器。デザインの実用性と価格とのバランスの良さが評価された。麻袋などを象り電気铸造でメリッキを施した折井宏司さん(高岡市)の「網目トレー」や、手仕事の跡が残る素朴な藤島いっかんさん(同市)の「諒」なども目を引いた。



Contemporary Japanese Design Craft展

高岡クラフト展の受賞者がロンドンで高い評価

(問) 高岡市デザイン・工芸センター tel 0766・62・0520

平成13年8月3日~9月30日、イギリスのロンドン市内にあるギャラリーFLOWで開かれた「OUTLINE—Contemporary Japanese Design Craft展」に高岡クラフト展の受賞者が出演。現地の新聞や雑誌などで大きく報道されるなど、好評を博した。

これは英国における日本文化行事Japan2001にあわせて、オランダに拠点を置くデザイン会社のENGINEが企画した日本人の作家7人による展覧会。高岡市デザイン・工芸センターの推薦で、高岡クラフト展の受賞者から黒田昌吾さん(漆工芸家/高岡市)、金子透さん(金属・磁器の工芸家/山形県)、山田瑞子さん(ジュエリー作家/東京都)らが参加の運びとなった。会場には、布、漆、金属、陶器、竹籠細工による作品約30点が展示。

21世紀のライフスタイルに溶け込む新たな日本のデザインクラフトは、現地のTIME OUT、CRAFTSなどの雑誌で紹介されたほか、有力紙THE TIMESではBest5 exhibitions in Londonに選ばれた。この好評ぶりをロンドンで実際に見てきた黒田昌吾さんは「漆独特の色、質感に関心をもっていただきデザインも良い評価を受けてうれしい。今後も機会があれば海外展に参加して、その評価を作品づくりに生かしたい」と語っている。



量産販売授業でクラフト製品を制作

(問) 国立高岡短期大学 tel 0766・25・9111

高岡短期大学専攻科産業造形専攻の学生が、小物グッズを複数制作し学園祭で販売。タバコ型小物入れや組立式のマガジンラックなど個性的な力作揃いで、好調な売れ行きを見せた。

これは販売を前提に「複数制作する」ことで、マーケティングの実感や地元の職人との結びつきを深めようとする授業。昨年4月中旬から、同専攻の1年生21人が各々モデルを製作。コンペで5種類に絞り込み、同年10月から5チーム編成で10点以上100点以内の共同製作に入った。作業は精度やコストを意識しながら進行。マーケティングで発見した不備を改良したり、製作を依頼した地元の金属加工職人からのアイデアをデザインに盛り込んだりと工夫を重ねた製品が完成した。学園祭ではオリジナルのパッケージや使用説明書を添えて販売した。指導教官の小松研治助教授は「連携することで新しい発想が生まれ、学生の力になる。短大の魅力アップにもつながるはず」と話している。



ノーサクの作品展

東京原宿で「鈴・林・燐 ノーサクの鋳器」を開催

(問) (有)ノーサク tel 0766・63・5080

東京原宿の「VERSION GALLERY」で平成13年8月10日~19日、高岡の銅器メーカー「ノーサク」が作品展を開催。澄んだ音色を奏でる鈴や風鈴、苔や野草を美しくひきたてる器、やさしい光を放つキャンドルホルダーとベンダントライトなど、音(鈴)・植物(林)・光(燐)のテーマでしつらえた涼やかな鋳器群が会場内を満たしていた。

今回の作品展では、きらびやかで冷たい真鍮のイメージを一新。従来の鏡面磨き(着色)ではなく、真鍮そのものの色合いを生かすクリア塗装を全作品に採用した。しっとりと落ち着いた仕上がりは、「あたたかな表情で心癒された」、「反射する光が柔らかで美しい」と来場者に大好評。これを機に東京の販売業者(インテリア、和雜貨、植物など)との取引も始まった。展示作品だけでなく新商品の要望も多く、すでに幾つかの商品化が共同開発によって実現。どれも鋳物の可能性を引き出した斬新なものばかりだ。中でも真鍮の素朴な鉢「キューブ」は、一切加工を施さず鉄肌のまま仕上げた新しい試みによるもの(26頁で紹介)。同社では今後も既成概念に捉われない提案で新たな市場開拓に努めたいとしている。



2001年度デザインの動向

第27回デザインセミナー

[平成13年12月6日開催]主催/高岡クラフトデザインネットワーク

「今、時代が要求するデザインとは?」

講師の澄川伸一さんは、セミナー前半で「売れたデザイン・売れなかったデザイン」を検証。商品化されたご自身のデザイン30点ほどを事例に挙げながら、開発意図、デザイン、価格、市場など、売れ行きを左右したさまざまな要因について詳しく説明した。

後半では「今、どんなモノが売れるのか」をテーマに、売れるものづくりのためのマーケティング理論を講演した。

まず「売れるモノには、ある一定の法則がある」と定義。「頼る」から「守る」時代へと移行している現在では、質が良く長持ちするもの、癒されるもの、毎日使うもの、健康に良さそうなもの、仕事の能率が上がりそうなもの、ランニングコストが安く得なもの、



プロダクトデザイナー 澄川 伸一

1962年東京生まれ。'84年千葉大学工学部工業設計学科卒業後、ソニー株式会社入社。'87年渡米、Sony America Design Center勤務。'91年に帰国。'92年渥川伸一デザイン事務所設立。現在に至る。富山プロダクトデザインコンペ'95デザイン優秀賞、川崎デザインコンペ'96デザイン優秀賞、2000年Gマーク受賞など受賞多数。

生活を楽しくしてくれるもの、流行にとらわれないもの、スペースセービングができるもの、時間や手間を省いてくれるもの、であるという。その具体例として、通気性にすぐれたメッシュのオフィス用椅子「AERON CHAIR」、映画も音楽もキレイで速いアナログ回線「ADSL」、手軽で可愛いペットロボット「AIBO」などを紹介し、買うことのメリットが単純明快なものでなければ売れないことを実証。最後に、ものづくりのヒントとして「現行品を癒しのデザインやスペースセービング可能な機能(皿のスタッキングなど)で検証したり、ランニングコストを下げる工夫の可能性を考えることで、新たな需要のチャンスが生まれる。これらをスピーディに商品化することが重要だ」と提言し締めくくった。

モダンだけどあたたかい
手仕事のやさしさが
気持ちいい。
「Flower Vase」
銅肌を削らず素朴に仕上げた花入れ。
高岡の銅器問屋3代目 炭谷政孝さんが
美術工芸品を販売する方で、ライフ
スタイルの変化に合わせ3年ほど前か
ら作り始めた普段使いのクラフトであ
る。様式に捉われないモダンな表情には
「伝統工芸を身近な存在として使って欲
しい」との思いが込められている。炭谷
さんの作品は、東京の展示会を通して
新たな市場を開拓中。昨年春には、奥様
の炭谷三穂さんが生活雑貨とクラフト
の店「トランク」を開いた。見て楽しく、
使って楽しい。そんな暮らしを楽しむす
るクラフトに出合えるお店である。

natural craft room
TRUNK [トランク]
高岡市野村251-3
(野村小学校グランド前)
tel 0766-26-2039
営 11:00~19:00(休)日曜日



14

「Flower Vase」
花器/アルミ/小W7×H7×D4cm
中W10×H9.5×D3.5cm
大W5.5×H11.5×D3.3cm(Hは花器本体のみ)
価格 小2,300円 中・大2,800円
問 炭谷三郎商店 tel 0766-22-0869



<建築物部門>最優秀賞/テニステクニカルスクールWish



<住宅部門>優秀賞/谷口邸



<住宅部門>優秀賞/宮詮邸



<住宅部門>優秀賞/鮎谷邸



<まちなみ景観部門>優秀賞/千保川ほとり



<まちなみ景観部門>優秀賞/金屋町



<フォト景観特別部門>優秀賞/庄方用水

平成13年度高岡都市美景観賞

再発見狙い、フォト景観特別部門を新設

(問)高岡市都市整備部建築指導課 tel 0766-20-1429

平成13年度の高岡都市美景観賞は、120件の応募があった。10回目を迎えた今回の大きな特徴は、4年ぶりに建築物が最優秀賞に選ばれたことだ。田園の中に美しくたたずむ「テニステクニカルスクールWish」である。「外観やエントランス、さらに室内の空間処理までも人目にやさしく良質なデザイン感覚が魅力的」と松永真選考委員長の評価も高い。

この最優秀賞と共に印象的だったのが、新設されたフォト景観特別部門への大きな反響だ。美しい景観をファインダーで再発見してほしいとの呼びかけに、64点もの写真が寄せられた。この背景を「都市景観に対する市民の関心が高まった結果ではないか」と関係者は見ている。

同部門初の優秀賞は「鐘紡町」の今藤正昭さん、「庄方用水」の沢田英明さん、「千保川」の沢田玲子さん。その「千保川」によって発見された桜並木の散歩道は、「千保川ほとり」としてまちなみ景観部門でも優秀賞に選ばれている。



<フォト景観特別部門>優秀賞/鐘紡町(二上山通望) <フォト景観特別部門>優秀賞/千保川

高岡市企業交流交歓会

産学官の情報交換で産業活性化を

(問)高岡市商工労働部工業労政課 tel 0766-20-1293

平成13年11月30日、「第1回高岡市企業交流交歓会」が高岡市新横町のホテルニューオータニ高岡で開催。市内に本社や工場を置く大手企業35社や高岡商工会議所、高岡短期大学、高岡市などの関係者約70人が出席した。同会は、高岡市が市内の企業間や産学官の交流促進を目的に企画。業種や分野に捉われない幅広い情報や人のネットワークを構築し、産業の高度化や多様化を図ろうというものである。

前半の交流会では、初めに市が策定した新産業振興プランの概要を説明。続けて、力ネボウの白根克司薬品技術室長が「薬品工場と漢方ヘルスケア研究所の集中統合」、日本ゼオンの称原幹雄常務取締役が「日本ゼオンの事業と高岡地区における展開」について報告。これを受けて県総合デザインセンターの黒木靖夫所長が「産業活性化への提言」のテーマで講演した。後半では出席者同士が自由に情報交換できる交歓会を設定。高岡の産業経済の情勢や指針について活発に話し合った。

同会は、今後さまざまに趣向を変えてながら毎年継続していく考えだ。



高岡市立博労小学校「ばくろう思い出館」

明治から平成まで1世紀にわたる児童の絵画・習字・作文を収蔵

博労小学校に「ばくろう思い出館」が誕生した。同校は明治34年の創立以来、毎年6年生の児童が卒業を機に作品を残している。明治、大正、昭和、平成(第2次世界大戦中の数年を除く)と、1世紀にわたる児童の絵画・習字・作文約3万5,000点を継承し収蔵してきた。思い出館は貴重な収蔵作品の展示を目的に音楽室を改築、整備したもの。創立100周年記念式典にあわせて平成13年6月にオープンした。

現在館内には、第1回卒業生の習字による寄せ書きをはじめ、水源塔のある風景や懐かしい生活と子供の遊びを描いた水彩画など約50点を展示中。作品を通して美術教育の変遷、さらには町の歴史や時代性までもうかがい知ることができる。観覧には予約が必要だが、自分や家族の作品であれば展示以外でも閲覧可能。パソコンによる作品検索も検討中のこと。



13



①既に製品になっている門扉を小型化したものの木型製作が今回の仕事。仕上げ間近の段階で先輩・山崎さん(左)と社長(中央)のチェックを受ける。
②ミシン(糸鋸)による木取り。透かしなど木が不要なところを切り落とす。
③門扉の木型には同じ模様の前面の型と後面の型がある。奥は、手前の型と対をなすもので、ミシンが途中の中のものである。
④鉗(かんな)一式。通常の平刃のものほかにRの凸面、凹面などを仕上げる特殊な鉗もある。



完成品

彫刻刀を使って、門扉の細かい模様を出す。板は、紅松、アガチス、朴の木を使い分けるが、門扉では彫る作業がしやすい紅松を使う。

「木型から起こされた铸物は、誰でも見ることができます。でも木型って、一般の人目に触れることはありますよ。だから僕は、铸物を見たら、木型の構成やつくり方が気になります」

そう語るのは、この道に入つて6年が過ぎた嶋光太郎さん。26歳。短大の木材工芸科を修了した後、父親が経営する会社で先輩のアシスタントから仕事を始めた。職人希望の若者が少なくなっていることを思えば、彼の選択は貴重なものといえるだろう。木型は、铸物の原形になる。製作物の大ささに合わせて板を用意し、厚みの必要なところには板を重ね、また透かしで板が不要なところはミシンで切り落としていく。あとは図面に合わせて模様を彫り込む。铸物の門扉やフェンスなどは、こうしてつくられた木型が原形になっている。

言葉で表すと木型づくりの概略は以下の通りであるが、彫りの浅さ・深さ、エッジの丸みや角の残し方で、同じ図面を元にしても風合いが全く違った作品にな

るという。木型づくりに求められるのは、繊細な職人技なのである。

「木型以上の铸物はできないので、模様を彫っていく時はキャリアを積んでいても気が抜けません。これは先輩の口癖ですが、最近よく実感させられます」と、未来の匠は奥の深い木型づくりを語る。

直接、技術的な指導をしてきた山崎哲朗さんはヤングマイスターの言葉を引き取つて、「木型づくりには正解がありません。職人一人ひとりの答え方が木型になるから、答えは何通りもある。でも、木型以上の铸物がないことは眞実で、この眞実の深みと解法をいくつも光太郎さんは知つてもらいたい」とエールを送る。

光太郎さんは将来、木型づくりにCAD、CAMを導入することを目指し、講習会等には積極的に参加。繊細な手仕事の前工程の合理化と図面をより正確に反映することを企図しているが、5年後、10年後には木型づくりにもうひとつ解法が生まれていることを期待したい。



嶋 光太郎 (しま こうたろう)
1975年生まれ。高校3年の夏に家業の木型づくりを意識して、国立高岡短期大学木材工芸科に進む。'96年に卒業と同時に木型製作会社の嶋モーテリングに入社。

だから、模様を彫るときは……。

木型を超える铸物はありません。

【木型師】嶋 光太郎

有限公司 嶋モーテリング



技を伝える

伝統的工芸品
技術・技法継承者育成事業

伝統工芸産業
後継者育成技術伝承講座



高岡銅器・漆器の貴重な伝統的工芸品の技術・技法の継承を目的に実施されている同事業の平成13年度の育成者は、北光雄さん。また、継承者は、大角安津子さん。大角さんは、高岡市が開講する伝統工芸産業技術養成スクール(彫金)の修了者で、北さんの指導は通算5年間受けている。「彼女は10分でも20分でも毎日彫(たがね)を打つ、習ったことを身に付けようと努力するところがいい。彫や金づちが体の一部になります。15年はかかるだろうけど、高岡の彫金の技術を受け継いでもらいたい」と熱が入る。

「打出し」の技法を習得しようと、北さんから示された課題を前に無心に彫打つ大角さん。「高校も大學も伝統工芸とは関係ありませんでしたが、彫金を続けたい」と抱負を語る。

参加者の広瀬知香さんは、「高岡にない技術ですが、習得して自分たちの制作に役立てたい」と意気込んごいた。

高岡発「素材と技術」レポート

4

モノづくりの町・高岡を下から支えているのが新しい素材や技術の開発。起業家精神に満ちあふれた技術者たちが日夜研究にいそしみ、新素材・新技術を生むべく努力している。ここではその基礎となる新しい素材や技術の開発動向をレポートする。

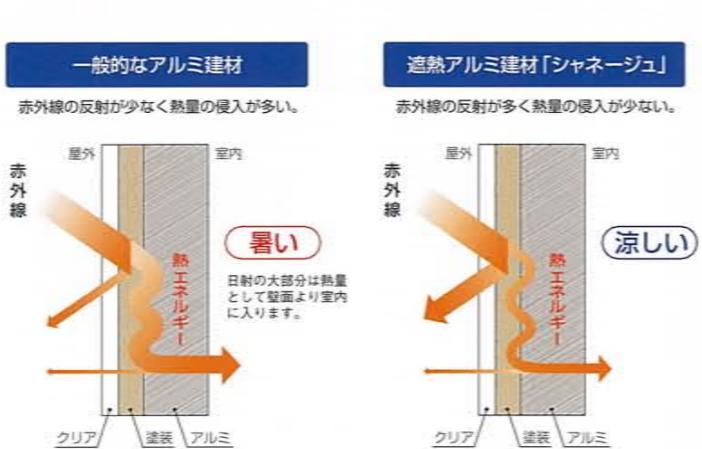
第一は冷房負荷を低減し、ひいては省エネルギーに寄与することである。赤外線の反射により、室内への熱の侵入を低減。冷房のための電力料金を削減できるばかりでなく、冷房機器の設置台数を少なくするなど、シャルコストを下げる効果もある。また空調機器使用の抑制は省エネルギーをもたらし、空調



※ヒートアイランド現象：都市部において、空調設備からの排熱等により、気温が郊外に比べて高くなる現象。

優れた省エネルギー効果を実現

ネージュと従来のカーテンウォールを比較すると、表面温度はシャネージュが10℃前後低い（ともにターカーフィラムで比較）。これによりアルミの熱伸びを抑制することができ、シール面地にかかる負荷も軽くできる。



設備からの排熱の減少により、ヒートアイランド現象の抑制も期待できる。

表2は、シャネージュと従来のカーテンウォールを用いた場合の省エネルギーの効果を比較し、電気料金に換算したものである。4面ともシャネージュを用いた場合は、冷房の電力料金を20～30万円節約できる試算結果が出た。（試算＝同社商品設計部）

熱反射性顔料はほとんどの色で対応可能ということができるが、この遮熱アルミ建材はカーテンウォールだけではなく、手すりやバルコニーなどへの使用も可能といえよう。

なお同社では、マグネシウムを用いた新しい合金とその用途開発にも取り組んでおり、手すりやバルコニーなどへの使用も可能といえよう。

なれば、マグネシウムを用いた新しい合金とその用途開発にも取り組んでおり、手すりやバルコニーなどへの使用も可能といえよう。

Hill Hill
TAKAOKA PRODUCTS



省エネ・省コストをもたらす 遮熱アルミ建材を開発

三協アルミニウム工業株

地球温暖化防止、省エネルギーなどが社会的な課題になっている昨今、三協アルミニウム工業株ではこうした時代の要請に応えて遮熱機能を持った建材の開発を平成12年より開始。三木コーティングデザイン事務所、伊藤忠ファインケミカル株と共同で、熱反射性顔料を用いたアルミ建材「シャネージュ」を開発し、特許を申請した。

その第一は、ショット部分への負荷の軽減。シャ

太陽光線の50%ほどは赤外線

赤外線を吸収した物体は、その分子を振動させて熱を帯びる。ビルの外壁も太陽の日差しを浴びて熱くなるが、今回開発されたシャネージュでは、顔料そのものが赤外線を反射し、物体（アルミ）の温度上昇を抑制（表1）。この遮熱機能により、シャネージュは以下のようない特長を持つ。

その第一は、ショット部分への負荷の軽減。シャ

赤外線日射反射率の比較

(表1)

色調	ダークブラウン	アーバングレー	ライトグレー	ライトベージュ
シャネージュ	50%	76%	70%	84%
一般塗装建材	12%	41%	44%	59%

シャネージュの省エネルギー効果

(表2)

色調	削減率	電気料金削減額／4カ月
ダークブラウン	3.8%	約31万円
アーバングレー	3.6%	約29万円
ライトグレー	2.7%	約21万円
ライトベージュ	2.6%	約21万円

W79.4×D39.7×H22.7mの5階建ビル、Wのサイドが東西に面する。アルミ（ネル面積約3294m²、窓面積約2126m²、4面同色カーテンウォール）。2000年夏の東京の気象条件、空調設定温度26℃、窓面熱貫流率1.8192kcalを想定。電力料金は東京電力業務用夏季電気料金（14.6円／1KWh）に基づく。（詳細は同社ビル建材部（TEL0766-20-2201）まで）

高岡式ものづくりで 新クラフト産業を育成

Design Craft Center
事業案内

高岡市には約500社の金属関連メーカーが集積し、金属工芸品の産地としては全国に類を見ない総合力を生かしたものづくりが可能な地域である。今後は、従来にも増して、新しい商品の開発に力を入れることが大切であるが、その際の取り組みとしては、「カラボレーション」よりも「セッション」がよいのではないかと思われる。すなわち、铸造、加工、着色等の優れた技術を有する企業とデザイナーやアーティスト、高岡市デザイン・工芸センターが互いの力をバランスよく發揮し、それをまとめて新商



高岡市デザイン・工芸センター

モダンな漆の表塗（かわりぬり）。本体の素材は鉛レジン合金で、器の表面に塗られた漆がユニークな表情をのぞかせる。こうした試作品は平成14年9月26日～10月8日、新宿OZONEギャラリーにて展示される。

今回の高岡クラフトコンペ審査を私はとても

楽しくさせて頂いた。
会場に集まつたクラフトを見るこことによって、
その背景にある生活に思いをはせる事が出来たからである。

高岡の伝統的生活や近代化されてきた最近の生活、そのデザイナーや作り手の思い等、
実際に様々な事を想像してしまった。

多様化し方向を見失いがちな現代に向けて、
クラフトの力が伝統を踏まえた新しい生活を示唆し続けていく事を期待したい。

審査を終えた私は、突然審査員から消費者に変貌しショッピングを開始した。

自宅のキッチンで使えそうなスツール、ポケットの小物を出しておくためのトレイ、そして娘のおみやげにリングの3点を購入した。スツールは、壁にぴったりと置いておけるコンパクトさと、踏み台としたときの安定感は我が家のが家のキッチンに最適である。木の素材感と動きのあるシャープなデザインも気に入った。トレイのナイロンネットは、デザイナーの意図は解らないが、小物を投げ入れても優しく受け止めてくれるし、小銭を拾い上げるにも都合が良い。

リングは、二つの銀のチューブをつぶしたデザインが気に入った訳だが、娘はカルティエやティファニーの方がよかったです。建築家である私の好みは、どうもシンプルなモダンデザインと素材感にあるようだ。私個人の話をさておいても、クラフトとそれを使う人々との間に、楽しい様々な生活物語が生まれ出されて行くことに期待したい。

choice.

2001 TAKAOKA CRAFTS EXHIBITION 審査員が買ったクラフト

工芸都市高岡2001クラフトコンペティション審査員「芦原太郎」

200 !



芦原太郎
Ashihara Taro 「建築家」

1950年東京生れ。1974年東京芸術大学美術学部建築科卒業。
1976年東京大学大学院建築学修士課程修了。芦原建築設計研究所勤務を経て、1985年に芦原太郎建築事務所を設立。住宅から公共施設など多数の設計を手掛けるかたわら、大学での講師や、各種委員会委員、審査委員を務めるなど、幅広く活動している。「93新日本建築家協会新人賞・日本建築学会作品選奨・第38回建築業協会賞等受賞多数。

ムーヴィン 通販俱楽部

2001クラフト展作品誌上通販

の作品は、インターネットでご注文いただけます。



「会席 千鳥」

内島正雄 (富山県)

●食物をのせる台 ●木・漆・貝

●39×39×2cm

価格 1枚15,000円

堅牢でありながら、アクセントとしての螺鈿が洗練美を演出。現代の生活シーンにマッチするお洒落な漆器です。

審査員賞

「ぺこみのあるグラスと ピッチャー」

迫田岳臣 (岡山県)

●ピッチャー・コップ ●ガラス

●ピッチャー11×11×24cm

コップA/9×9×8.5cm・B/8×8×10cm

価格 ピッチャー1個6,000円

コップ1個2,700円

溶けたガラスを自然のままにへこませたフォルム。
作者の感性と素材の特性が溶け合う独特の
作品です。



モダーン MODERN

下尾和彦 (富山県)

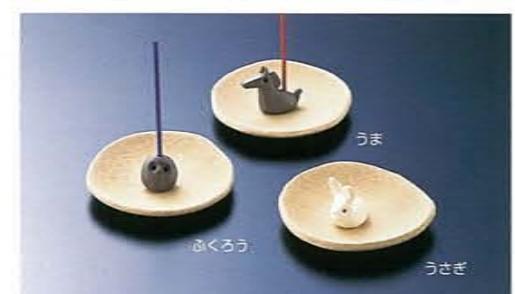
●テーブル・椅子 ●クルミ材
●テーブル150×35×80cm
椅子40×60×80cm

価格

テーブル170,000円
椅子100,000円

和や洋という様式を超えた
モダーンデザイン。現代の
暮らしに新しい価値を提案
してくれそうです。

グランプリ



「香立」

笠谷博 (京都府)

●香立 ●陶器 ●8×8×3cm

価格 1組1,500円

かわいい動物がデザインされたファンシー
な香立。住む人の心を癒しながら、
新しいお香の魅力を引き出します。

「マグネット・クリップ」

篠宮敏明 (北海道)

●メモホルダー・フォトスタンド ●木
●小A4×24×48cm・大A8×24×48cm

価格 小1個1,000円
大1個1,600円

冷蔵庫などにくっつけても、立
ても使えるマグネット付きクリッ
プ。手に程よく馴染む使いや
すいフォルムも魅力的です。

奨励賞



「八起皿」

藤島いっかん (富山県)

●皿 ●檜・漆 ●4~8寸×2cm

価格 四寸2,500円・五寸3,300円・六寸4,400円
七寸5,800円・八寸7,400円

中央部分が微妙に盛り上がったユニークな形
の漆皿。木の自然な曲線がくわざかに浮き出て、
独特の文様を描いています。

※下記URLにリンクされている申し込みフォームでご注文ください。※通販有効期限=平成14年9月末日
<http://www.ccis-toyama.or.jp/takaoka/craft/>

【注意事項】●商品価格には、消費税が含まれていません。●1万円未満の商品は、送料を別途ご負担いただきます。●商品到着後9日以上経過したものや、お客様のもので破損・汚損・傷が生じたものは、返品をお受けできません。●電話・ファックスでのご注文は受け付けていません。●商品は手作りのため、形状・色・寸法などに多少の差が出る場合があります。●商品によっては、ご注文から1~2ヶ月ほどお待ちいただくことがあります。また、数に限りがありますので、万一品切れの際はご容赦ください。●お支払い方法・送料等の詳細は、上記URLに明記されています。ご注文の際には、必ずご確認ください。





加賀藩主前田利長が開いた、390年の歴史をもつ商家町。

山町は前田利長が高岡城と城下町を築いた際に、太閤秀吉縁の山車を与えたことに由来する。山町のなかで旧北陸道沿いの町筋にあり、かつて商業の中核であった御馬出町、守山町、木舟町、小馬出町を山町筋と称する。毎年5月1日には、高岡を代表する「高岡御車山祭」が開かれ、山町では絢爛豪華な7基の御車山が引き回され多くの観光客で賑わう。高岡御車山は国の重要有形・無形民俗文化財として、山・鉾・屋台を使用した年中行事では京都祇園祭や高山祭りと並び高い評価を受けている。



赤レンガの銀行

菅野家の筋手口と煉瓦造りの防火壁

山町筋の町並み



重要文化財 菅野家
—土蔵造りフェスタにて—

れ、その評価が次のように記されている。

「高岡市山町筋伝統的建造物群保存地区は、近世に成立した城下町の町人地の骨格を踏襲しながら、明治33年の大火以後に当時の都市防災計画にしたがって再興された町で、重厚かつ識細な意匠をもつ土蔵造りの町家や洋風建築が建ち並ぶ特色ある歴史的景観を良く伝えおり、我が国にとって価値が高い」。

面積は5.5haで、蔵や母屋など建造物が90棟、壁や門など工作物11件の伝統的建造物がある。高岡市ではこれら山町筋の歴史的な財産を生かして魅力あるまちづくりを進める保存活用事業を、住民と行政が協力しながら進めている。

価値の再発見からはじまる 条例づくり

今でこそ住民たちが土蔵造りの歴史的財産を誇りしているが、以前はそうではなかったようだ。土蔵造りの家と混在するようにある現代的な建物や駐車場がそれを物語っている。昭和40年頃からの高度成長期以来、土蔵造りを改築した家は多くは車庫をつくるため」と振り返る眞指定有形文化財、筏井家当主の筏井晴夫さんの言葉通り、モータリゼーションの波など時代の流れの中で改築された家も少なくない。重伝建地区に指定された直前まで改築を考えていた家も何軒かあったという。

高岡市では昭和60年に山町筋の伝統的建造物群の実態調査を行っている。建造物の図面作成や町割調査、職人へのヒアリング

等をして、いわゆる基礎資料を作成した。

平成8年に「町並み保存・都市景観懇話会」が発足。2年後に「町並み保存・都市景観形成に関する条例」が施行された。この条例は文化財保護法に基づく伝統的な町並みの保存と、現代の景観も視野に入れており、同様の条例をもつ自治体は函館や神戸などわずかである。

「高岡市には歴史的景観が他の地方に比べて多くあります。それらを柱に近代的な景観形成を同時にい、高岡らしい町づくりを進めよう」という考え方があります」と条例の意図を話す高岡市文化財課の大石課長。条例の施行後、地元住民と話し合いを積み重ね、多数の同意を得て山町筋を条例に基づく初の伝建地区に決定したのが12年5月。そして7月に重伝建地区の申請となつた。

「重伝建地区は住民の権利を規制する要素もあって理解いたくまで時間を要します。たとえば新築や改築の際は、高さや外觀に一定の制限がかかりますからね。しかし、国から歴史的建造物の修復に対する技術的な援助と補助金が受けられるメリットがあります」(大石課長)

協議会の発足とイベントを
契機に、町の結束が強まる

「土蔵造りの町並みが建築的にも価値あるものと外部からの高い評価もあって、住民がその魅力を再認識しました。そこで他の伝統的な町などを視察したり、各地で催されるフーラムに積極的に参加して町づくりの情報

高岡は加賀藩2代藩主の前田利長が慶長14年(1609)に築いた古い歴史を持つ町である。
このときに開かれた商家町、通称「山町筋」が

平成12年に国の重要伝統的建造物群保存地区(重伝建地区)に選定された。いま、江戸時代から繁栄し、明治期の大戸以降に再建された土蔵造りの町を、住民と行政が歩調を合わせながら、

歴史的景観を生かした魅力ある町づくりへと取り組みはじめた。

*重要伝統的建造物群保存地区／市町村が定める伝統的建造物群の中から価値の高いものが選ばれる市町村の保存事業に対し、国からの財政的援助や技術的指導が行われる。

高岡 山町筋

国の重要伝統的建造物群保存地区



山町筋重要伝統的建造物群保存地区(約5.5ha)

収集をしています」と語るのは「土蔵造りのある山町筋まちづくり協議会」会長の塙崎利平さん。協議会は山町筋にあたる4町の住民で組織され平成4年に発足した。

また、先の筏井さんは協議会発足当時から事務局長を務められ「協議会が発足した年から、町内会の旅行では必ず古い町並みを観察して、その住民の方と交流を図るなど情報収集をするようになりました。町の誇りが確実に醸成されてきたと思いました」と住民意識の変化を強調する。

3年前からそれまで個々に催されていた夏祭りを4町が足並みをそろえ、高岡市・岡商工會議所との協力で「土蔵造りフェス」を開催している。土蔵造りの魅力や町並みを

土蔵造りフェスで展示された高岡市車山の模様人形



山町筋天神様祭の展示風景

土蔵造りの家にある庭

「フェスをはじめるまでは御車山祭以外に山町筋4町間の繋がりはなかったと思います。フェスと重伝建地区指定によって、これまでにない町筋全体としての求心力を感じます。しかも土蔵について語る顔付きに、以前にはなかつた誇りや自信のようなものを感じます」と語る老舗和菓子店の大野隆一さん。さらに塙崎さんは「フェスだけではなく土蔵を含めた山町の生活文化の継承と発信という意味で、今年から1月に天神様を、昨年から2月に雛人形を、いずれも代々受け継がれているものを集め旧家などで展示しています」と新たな企画も動き出しました」と高岡漆器の仕事を携わる当主の中村喜進さんは、その職人技術に舌を巻いたと

いえます。この工事は単に様式的な景観の整備ではなく、素材や技術にこだわり文化財としての価値を維持することにも特色がある。一方、山町筋でお店を構える方に町への期待を聞いてみた。先の大野さんは「お客様は和菓子を買う目的だけで来店されるのが現状ですが、これからは買い物がてら、ふらっと散策したくなる、そんな通りになればと思います」と、さらに呉服店を営む作井宗人さんも「ゾーンを楽しめる町になってほしい。お店は町に溶け込んでいくことで存在感が出てると思います。地味かもしれないけど歩くとホッとする雰囲気を大切にしてほしい」と、どちらも土蔵が醸し出す癒し感に期待する。

として進められていました。修理・修景事業が完了した建物だ。5棟が屋根や壁など外観を復元、1棟は土蔵様式の外観に新築された。今後も年5棟程度で工事を行い、約10年後には全体が完了する計画だ。初年度に復元された中村家にお話をうかがった。改修にはとても満足しています。あと3、4年すると20軒ほどの家が改修され、通りの印象は確実に変わります。それにしても漆喰の仕事が昔とまったく同じ技法なのに驚きました」と高岡漆器の仕事を携わる当主の中

村喜進さんは、その職人技術に舌を巻いたと紹介していただいて助かりました」と振り返りました。国の重要文化財なので、修繕面では個人で解決できない技法をもつ職人を紹介してもらいました。改めて「失われつつあった明治の町並みの復元は、高岡の得難い財産になるはずです」と山町筋の未来が楽しみといつ。

高岡の山町筋は、いま新しい町づくりへと動き出したばかりである。今後は、道路の舗装整備や無電柱化、銀行跡地や空き家の利用方法などについては「公共施設整備基本計画」を作成して、住民や有識者、コンサルタントと打ち合わせを重ね、15年度から着手する方針だ。古いものが新しい町並みのデザインの鍵を握ることになるが、国宝瑞龍寺とあわせて全国に誇る歴史的財産になることは間違いない。

キュー

有限会社ノーサク

ガラスの洗面化粧台 / ガラス ● W1635×H80×D58cm
設計価格 / 「A 02」
400,000円 (全員類別途)

● 参考上代 / 大9,500円 小5,300円
栽培園オリジナル (植物入り)

aQuaLuce (アクアルーチエ) (写真B)

ガラスの洗面化粧台 / ガラス ● W1635×H80×D58cm
設計価格 / 「A 02」
400,000円 (全員類別途)



ウオーキング

立山アルミニウム工業株式会社

ノンレール完全フラットサッシ / ウォール完結フラットサッシ
立山アルミニウム工業株式会社

● サッシ / アルミ JIS H4100に規定するAB0633
W-5 (500kg) / 開閉性S-5、遮音性T-1、ガラス溝
幅0.14m
● 参考価格 / 一般タイプ引違い戸
57,750円 (ガラス代、工事費別途)

ローテーブル 紺

天野漆器株式会社

漆器 / 木 ● W60×H8×D60cm
価格 / 130,000円

ウオーキング

立山アルミニウム工業株式会社

ノンレール完全フラットサッシ / ウォール完結フラットサッシ
立山アルミニウム工業株式会社

● サッシ / アルミ JIS H4100に規定するAB0633
W-5 (500kg) / 開閉性S-5、遮音性T-1、ガラス溝
幅0.14m
● 参考価格 / 一般タイプ引違い戸
57,750円 (ガラス代、工事費別途)

ローテーブル 紺

天野漆器株式会社

漆器 / 木 ● W60×H8×D60cm
価格 / 130,000円

キュー

有限会社ノーサク

ガラスの洗面化粧台 / ガラス ● W1635×H80×D58cm
設計価格 / 「A 02」
400,000円 (全員類別途)

aQuaLuce (アクアルーチエ) (写真B)

ガラスの洗面化粧台 / ガラス ● W1635×H80×D58cm
設計価格 / 「A 02」
400,000円 (全員類別途)



ウオーキング

立山アルミニウム工業株式会社

ノンレール完全フラットサッシ / ウォール完結フラットサッシ
立山アルミニウム工業株式会社

● サッシ / アルミ JIS H4100に規定するAB0633
W-5 (500kg) / 開閉性S-5、遮音性T-1、ガラス溝
幅0.14m
● 参考価格 / 一般タイプ引違い戸
57,750円 (ガラス代、工事費別途)

ローテーブル 紺

天野漆器株式会社

漆器 / 木 ● W60×H8×D60cm
価格 / 130,000円

ウオーキング

立山アルミニウム工業株式会社

ノンレール完全フラットサッシ / ウォール完結フラットサッシ
立山アルミニウム工業株式会社

● サッシ / アルミ JIS H4100に規定するAB0633
W-5 (500kg) / 開閉性S-5、遮音性T-1、ガラス溝
幅0.14m
● 参考価格 / 一般タイプ引違い戸
57,750円 (ガラス代、工事費別途)

ローテーブル 紺

天野漆器株式会社

漆器 / 木 ● W60×H8×D60cm
価格 / 130,000円

キュー

有限会社ノーサク

ガラスの洗面化粧台 / ガラス ● W1635×H80×D58cm
設計価格 / 「A 02」
400,000円 (全員類別途)

aQuaLuce (アクアルーチエ) (写真B)

ガラスの洗面化粧台 / ガラス ● W1635×H80×D58cm
設計価格 / 「A 02」
400,000円 (全員類別途)



ウオーキング

立山アルミニウム工業株式会社

ノンレール完全フラットサッシ / ウォール完結フラットサッシ
立山アルミニウム工業株式会社

● サッシ / アルミ JIS H4100に規定するAB0633
W-5 (500kg) / 開閉性S-5、遮音性T-1、ガラス溝
幅0.14m
● 参考価格 / 一般タイプ引違い戸
57,750円 (ガラス代、工事費別途)

ローテーブル 紺

天野漆器株式会社

漆器 / 木 ● W60×H8×D60cm
価格 / 130,000円

ウオーキング

立山アルミニウム工業株式会社

ノンレール完全フラットサッシ / ウォール完結フラットサッシ
立山アルミニウム工業株式会社

● サッシ / アルミ JIS H4100に規定するAB0633
W-5 (500kg) / 開閉性S-5、遮音性T-1、ガラス溝
幅0.14m
● 参考価格 / 一般タイプ引違い戸
57,750円 (ガラス代、工事費別途)

ローテーブル 紺

天野漆器株式会社

漆器 / 木 ● W60×H8×D60cm
価格 / 130,000円

ウオーキング

立山アルミニウム工業株式会社

ノンレール完全フラットサッシ / ウォール完結フラットサッシ
立山アルミニウム工業株式会社

● サッシ / アルミ JIS H4100に規定するAB0633
W-5 (500kg) / 開閉性S-5、遮音性T-1、ガラス溝
幅0.14m
● 参考価格 / 一般タイプ引違い戸
57,750円 (ガラス代、工事費別途)

ローテーブル 紺

天野漆器株式会社

漆器 / 木 ● W60×H8×D60cm
価格 / 130,000円

ウオーキング

立山アルミニウム工業株式会社

ノンレール完全フラットサッシ / ウォール完結フラットサッシ
立山アルミニウム工業株式会社

● サッシ / アルミ JIS H4100に規定するAB0633
W-5 (500kg) / 開閉性S-5、遮音性T-1、ガラス溝
幅0.14m
● 参考価格 / 一般タイプ引違い戸
57,750円 (ガラス代、工事費別途)

ローテーブル 紺

天野漆器株式会社

漆器 / 木 ● W60×H8×D60cm
価格 / 130,000円

ウオーキング

立山アルミニウム工業株式会社

ノンレール完全フラットサッシ / ウォール完結フラットサッシ
立山アルミニウム工業株式会社

● サッシ / アルミ JIS H4100に規定するAB0633
W-5 (500kg) / 開閉性S-5、遮音性T-1、ガラス溝
幅0.14m
● 参考価格 / 一般タイプ引違い戸
57,750円 (ガラス代、工事費別途)

ローテーブル 紺

天野漆器株式会社

漆器 / 木 ● W60×H8×D60cm
価格 / 130,000円

ウオーキング

立山アルミニウム工業株式会社

ノンレール完全フラットサッシ / ウォール完結フラットサッシ
立山アルミニウム工業株式会社

● サッシ / アルミ JIS H4100に規定するAB0633
W-5 (500kg) / 開閉性S-5、遮音性T-1、ガラス溝
幅0.14m
● 参考価格 / 一般タイプ引違い戸
57,750円 (ガラス代、工事費別途)

ローテーブル 紺

天野漆器株式会社

漆器 / 木 ● W60×H8×D60cm
価格 / 130,000円

ウオーキング

立山アルミニウム工業株式会社

ノンレール完全フラットサッシ / ウォール完結フラットサッシ
立山アルミニウム工業株式会社

● サッシ / アルミ JIS H4100に規定するAB0633
W-5 (500kg) / 開閉性S-5、遮音性T-1、ガラス溝
幅0.14m
● 参考価格 / 一般タイプ引違い戸
57,750円 (ガラス代、工事費別途)

ローテーブル 紺

天野漆器株式会社

漆器 / 木 ● W60×H8×D60cm
価格 / 130,000円

ウオーキング

立山アルミニウム工業株式会社

ノンレール完全フラットサッシ / ウォール完結フラットサッシ
立山アルミニウム工業株式会社

● サッシ / アルミ JIS H4100に規定するAB0633
W-5 (500kg) / 開閉性S-5、遮音性T-1、ガラス溝
幅0.14m
● 参考価格 / 一般タイプ引違い戸
57,750円 (ガラス代、工事費別途)

ローテーブル 紺

天野漆器株式会社

漆器 / 木 ● W60×H8×D60cm
価格 / 130,000円

ウオーキング

立山アルミニウム工業株式会社

ノンレール完全フラットサッシ / ウォール完結フラットサッシ
立山アルミニウム工業株式会社

● サッシ / アルミ JIS H4100に規定するAB0633
W-5 (500kg) / 開閉性S-5、遮音性T-1、ガラス溝
幅0.14m
● 参考価格 / 一般タイプ引違い戸
57,750円 (ガラス代、工事費別途)

ローテーブル 紺

天野漆器株式会社

漆器 / 木 ● W60×H8×D60cm
価格 / 130,000円

ウオーキング

立山アルミニウム工業株式会社

ノンレール完全フラットサッシ / ウォール完結フラットサッシ
立山アルミニウム工業株式会社

● サッシ / アルミ JIS H4100に規定するAB0633
W-5 (500kg) / 開閉性S-5、遮音性T-1、ガラス溝
幅0.14m
● 参考価格 / 一般タイプ引違い戸
57,750円 (ガラス代、工事費別途)

ローテーブル 紺

天野漆器株式会社

漆器 / 木 ● W60×H8×D60cm
価格 / 130,000円

ウオーキング

立山アルミニウム工業株式会社

ノンレール完全フラットサッシ / ウォール完結フラットサッシ
立山アルミニウム工業株式会社

● サッシ / アルミ JIS H4100に規定するAB0633
W-5 (500kg) / 開閉性S-5、遮音性T-1、ガラス溝
幅0.14m
● 参考価格 / 一般タイプ引違い戸
57,750円 (ガラス代、工事費別途)

ローテーブル 紺

天野漆器株式会社

漆器 / 木 ● W60×H8×D60cm
価格 / 130,000円

ウオーキング

立山アルミニウム工業株式会社

ノンレール完全フラットサッシ / ウォール完結フラットサッシ
立山アルミニウム工業株式会社

● サッシ / アルミ JIS H4100に規定するAB0633
W-5 (500kg) / 開閉性S-5、遮音性T-1、ガラス溝
幅0.14m
● 参考価格 / 一般タイプ引違い戸
57,750円 (ガラス代、工事費別途)

ローテーブル 紺

天野漆器株式会社

漆器 / 木 ● W60×H8×D60cm
価格 / 130,000円

ウオーキング

立山アルミニウム工業株式会社

ノンレール完全フラットサッシ / ウォール完結フラットサッシ
立山アルミニウム工業株式会社

● サッシ / アルミ JIS H4100に規定するAB0633
W-5 (500kg) / 開閉性S-5、遮音性T-1、ガラス溝
幅0.14m
● 参考価格 / 一般タイプ引違い戸
57,750円 (ガラス代、工事費別途)